

真性凝り性のデュープなはまり方。
「グレイトフル・デッドで知ってる?」

PROFILE



北山のフティック、F・G・ヒリビリスのオーナー山本悟氏。サマルのTシャツに淡色のGジャンがお似合いで、掛けているのはショップのご近所でもあるグラスジョブ、グランチーズでオーダーメイドしたもの。

一度はまつたらデュープ。ストリートにその道を行く。

グレイトフル・デッドという伝説的にして今だ現役のバンドをご存じだろうか。北山のフティック、F・G・ヒリビリスのオーナー山本悟氏に「今一番好きなものは?」と聞けばもう「デッド、デッド、デッド」で止まらぬ程だ。朝起きてまずデッドを聞き、店で聞き、ついにはデッド・ヘッズのためのキャラクター・アイテムまでもを扱い始めたとか。それも当然日本では希少なものはかりである。もはやこれは山本氏によるデッド啓蒙とも言える域に(一)達している。とにかく山本氏のはまり方はとてあえずデュープ。「僕は何でもけっこう一筋やから。」の凝り性。旨いと評判の鳥肝入りスパゲッティの腕を披露していたたくというこちらの思惑は、彼のデッド・コレクションにすっかり圧倒(笑)されてしまった。



山本氏秘蔵の楽団の書、「The Story of the Grateful Dead」著のグレイトフル・デッドのファンブック。



コレクションの増々に加まれて種類がさらに披露。ジミ・ヘンドリクスなど下着を着るとストリートフル・デッドの音と響きは「もうカントリー・ブルック、フティック、ブルース、アフリカン・ソウル・ロックとあらゆるジャンルの影響を自分なりに感じているのさやね。ういふが中心で、多岐を探究してきている」といふのも「ここやね」。一度に20万人以上が詰め掛けるという海外でのコンサートにも参加出かける。



サングラスは好きで10個は持っている。中でも最近のお気に入りには大好きな映画「グラン・ブルー」で大好きな俳優ジャン・レノが掛けていたものを、グランチーズでオーダーメイドしたコイツ。「度入り、コンタクトレンズは何かね。」



最近気に入っているのがハーレー・キッドル「コンベントリウエーション」のものは、愛着のものを原料に使われているハーブがペラペラに剥がれていて色ごとに効能がありスペース。



山本氏の右腕(一) スタッフの若手勇樹君とのコラボレーションは抜群「けこ」と長年つきあいやな。友人でも愛する西郷廉伯の手によるショップの看板の制作風景の瞬間。



楽団のCD。イエロー・ドックのものは1986年結成を30周年を記念して発売された一枚シリ12入りの一枚、世界的に50枚限定という超レアなものだが、山本氏は5枚所有「残りも欲しい!!」



キャラクターの要素が詰まったTシャツ。地味なプリントは確かに面白い「デビッド・ヘイズのデザインは、どうもいろいろはまじりつつも楽しみのだから大きめがいいからフランスで知ったデッド・ヘッズ・デッド・ファンと「秋物も企画中」

取材・文/端井由紀子★写真/武蔵育子